

私の履歴書

谷 口 吉 生

たのは、国立大学の建築学科を出た父への「抵抗」だった。しかし、さうにバスに乗る。遠くともいえる。慶応に通う親戚が起きた。小児ぜんそくで学校は半分くらいしか通ってない。夜中に発作が起きたと両親に背中をさすられつ病院に向かうといった具合で、近所の子供が集まつて遊ぶ野球を窓越しに眺めることが多かった。

現在、東京学芸大学付属専門学校は、私の在籍中から進歩的で実験的な教育で知られる。まわりには秀才も多くの生徒と比較する。私は努力をしないが少しでもはみ出すと気が進む。模型製作も接着剤ス、真空管などを組み立てるのが得意な制帽をかぶる特徴的な制服をかぶる。都立の進学校を勧め、組み立てに1956年、同大工部（現

高校にはよく遊びに行った。警察署で柔道を習い、まだ外

を出でて横浜・日吉

はやり、秋葉原の電気街で部

品を買ってきては組み立てに

1956年、同大工部（現

高校にはよく遊びに行つた。警察署で柔道を習い、まだ外

を出でて横浜・日吉

はやり、秋葉原の電気街で部

</div